



ヴィッキーの
にっぽん紀行
 Vol.10

Victoria・Potter
ウィクトリア・ポッター
 ・1980年生まれ。英国ノーリッチ出身。
 ・2008年8月から町英語指導助手。

今月の初め、私は国際交流団体のメンバーと群馬県にカヌーをしに行きました。カヌーだけではなく滝を滑り降りたり、岩の上から水中に飛び込んだりもしました。あいにく私自身の写真はありませんが、同じグループだった館岩中のクレイ先生のを載せておきます。この写真で彼は高さ20メートルもあるウォーターフォールの上にいます。私たちはみんなここからロープで少し下り、そこからロープを切り離して滑り降りしました。写真ではあまり高さが伝わらないかもしれませんが、実際その場に立つてみるとなかなかのもんです。あまり高くないウォーターフォールからは頭から滑り降りることもできました。

そのほかにもたくさんさんのダイビングポイントがありました。この日は初めての経験ばかりでとてもたのしい一日になりました。この場所ではラフティングやパラグライダーの体験コースもあり、機会があればもう一度訪れたいと思います。(バンジージャンプ体験もあります。が・・・)

この前のシルバークウィークは7人の友人と東京に行ってきました。1日目はデイズニーシーに行きました。そこは普段の週末よりも混んでいました。そんな中、私が最も楽しんだのは、「タワーオブテラ」でした。近くにあるホテルと同じぐらいの高さまで引き上げられ、一気に落ちていくというものです。そのとき撮られた写真はみんな笑



(訳・只見中・平野)

顔の中、私だけ恐怖で叫んでいるようでした。2枚目の写真はチップとデールの一匹と一緒に撮ったものです。写真に写っているもう一人は二本松のALITのヘザーでこの写真を撮るために私はめいっばいかがまなければなりません。東京に滞在している間、横浜にも訪れ、そこでローストディナー(肉などを低温のオーブンで2時間ほど焼いたもの)を食べました。イギリスに帰ったさいの一番のお気に入りの食事、ローストディナーを1年ぶりに食べることができました。でもやはり、食事が終わる頃には苦しいほどの満腹感におそれ、イギリスの食事は日本のものと比べてヘビーだということを感じました。横浜での周遊を楽しむ、岸辺からの日の入りを見ることもできました。

皆さんのシルバークウィークはいかがでしたか？

広報ただみ診療所

南会津の救急医療の現状

朝日診療所 所長 佐竹 秀一

先日南会津町で行う予定であった「救急フェスタ」がインフルエンザの蔓延防止のため中止となりました。その際に公演予定であった南会津地域の救急医療の現状について今回、話をさせていただきます。

皆さんご存じのとおり、南会津地域は大きさにして神奈川県に匹敵する面積を有しており、約3万人が生活しています。この広い地域では現在、救急車は田島・下郷・伊南・館岩・松枝岐・只見の計6カ所に配置され、昼夜問わず皆さんの命を守っています。しかしながら面積が広いだけに現場まで30分かかる地域もあるのが課題です。

救急患者が発生した際いちばん近いところから救急車が現場に向かいますが、別件で出勤中の場合は他所からの応援隊が来るため現場到着時間が遅れてしまいます。都会でよくあるタクシー代わりの救急車利用は南会津地域ではほとんどありませんが、救急車の適正利用は皆さんに知っておいてほしい話です。万が一救急車を呼ぼうか迷った際は一度診療所に問い合わせるみてください。

データの話になりますが、昨年度の南会津地域での救急車出動件数は1408件でした。ほぼ全例がたらい回しなど無く医療機関に搬送されてきました。私たちの只見町は160件の出動で、うち約半数が更なる医療が必要な状態でした。診療所で初期治療を行った後、若松の救命センター等への搬送となっています。その際救急車のみならず、状況に応じてドクターカーやドクターヘリでの搬送も行っています。ドクターカーはより早く専門医の管理下に置くため、ドクターヘリはより早く救命センターへ運ぶためです(若松まで15分、かなり早いです)。しかしながら天候・日時に左右されることも多いため利用が難しいことも度々あります。そのため、若松までの道中2時間、患者さんを死なせずに持たせる救急の知識・技術が田舎の医者には要求されます。

僕も6月より毎週月曜診療所の仕事が終わった後、夜から会津中央病院の救命センターに入り、会津管内の救急患者の治療を行いつつ勉強させてもらっています。診療所としても7月にBLSという救急蘇生の資格を事務職含め職員全員が取得しました。

皆さんがもしもの時に安心して受診できる診療所、を目指し職員一同頑張っていますので引き続きご支援をお願いいたします。